

## 第1回・第2回コミュニケーションチーム検討会議の結果概要

日 時	第1回 平成28年4月21日(木) 18:00~20:00
	第2回 平成28年5月6日(金) 18:00~20:00
場 所	かながわ県民センター 12階 第1会議室
出席委員	第1回 坂井委員 金森委員 中門委員 西委員 増田委員
	第2回 坂井委員 中門委員 西委員 増田委員

## 概 要

## 1 平成28年度の広報計画について

## (1) リーフレットの作成及び配架先について

リーフレット「森はみずのふるさと」「支えよう！かながわの森と水」の利用者のターゲット(年代層)は変更せず、内容的に変更すべき箇所を検討し改訂を行う。

図書館に蔵書として置いてもらう、県産材を使おうと動いている小さな工務店、浄水場など施策との関連や意識の高い施設に配布するなど効率的な方法も検討しつつ、大学や病院、県の所管する施設など、配架先の検討を行う。

## (2) その他、広報全般について

フェイスブックの活用促進、ホームページ構成等について意見交換を行った。

## 2 県民意見の重要意見と分析結果報告書について

3月に県民会議に報告した「県民意見の重要意見と分析結果報告書」について、再度、内容を検討し、「県へのご提案」、「県民会議へのご提案」、「コミュニケーションチームの意見」を削除することとなった。

## 【主な意見】

## 1 平成28年度の広報計画について

## (1) リーフレットの作成及び配架先について

- リニューアルする場合、ターゲットとする年代層はどのあたりを考えているのか。全面改訂するのか。
- 現在のリーフレットは普遍的に使えるものを作った。ここでターゲットやレイアウトを変えるのはどうか。時点修正すればこのままでも良いのではないか。また、県内に置けるところ全てに置いているのかが疑問。県の所管する大学や病院などにも置けるのではないか。
- 昨年度の配布実績は1万と少しであった。どのようにして今年度目標の2万部配布を達成するのか。
- どこにどれだけ配布したのかという情報は把握しておくべき。(委員が独自に配布している場合などもあるが) 全ての実績が反映されていない。
- 県産材を使おうと動いている小さな工務店が増えてきている。そういった活発なところに配ると効果があるのではないか。
- 図書館ではリーフレット型の資料を蔵書として置いてくれる。県内の学校の図書館も対象に。
- 浄水場など意識の高い施設にターゲットを絞った上でリーフレットを撒けば無駄は減る。
- どれも似たような見た目だと手にとってもらえない。表紙の趣を工夫したらよいのでは。
- リニューアルするところは早めに決めたほうが良い。

## (2) その他、広報全般について

- 県民フォーラムの広報について、電車広告だと繰り返し見てインプットされるが、バスでの広報はあまり効果がなく、コストパフォーマンスが良くない。
- ホームページの改善に取り組んできたが、まだ見づらく、ひとつひとつ掘り起こさないと情報を得られない仕組みになっている。見る側の県民に労力を強いるようなつくりのホームページは改善すべき。
- フェイスブックは他団体の投稿をシェアし、こちらでもシェアしてもらうことで生きてくる。直接人に見てもらうことを要求できる利点を生かし、繋がっている人間を増やせば、投稿するだけで情報が拡散できる。
- フォーラムなどのイベント情報の発信が遅かったりする。チラシができていなくても電子情報などで色々なデータを送ってもらえると委員も宣伝しやすい。

## 2 県民意見の重要意見と分析結果報告書について

### <「コミュニケーションチーム 意見」欄について>

- 施策に反映されるべき県民意見が県の資料に入っていない。県民と県との間に意識の差があり、そこをコミュニケーションチームが埋めなければならない。
- なぜ県民から記載内容欄のような意見が出てきたかその背景を知っている人がいない場合もあるため、わかりやすくするための補足も必要。
- アンケート自体が生の声であるので、ひとつひとつ意見をいれるのは少し違うと考える。「コミュニケーションチーム 意見」はいらぬのではないかと思う。

### <「県へのご提案」、「県民会議へのご提案」欄について>

- 県民意見を施策に反映すると言っておきながら話が進んでいないという状況を打破するため、この報告書を作った。
- 分析結果・まとめは、アンケートをもとにしたものであるべき。
- 県に対する提案、提言というのは座長名で行うものだと思う。作業チームの一つであるコミュニケーションチームによる提案というのは違和感がある。
- 「県へのご提案」、「県民会議へのご提案」、「コミュニケーションチーム 意見」がなくてもアンケートの内容がかなり網羅されている。

### <その他>

- コミュニケーションチームの仕事は県民意見を集約するのが仕事かと思う。
- コミュニケーションチームが担う役割がどこまでなのか明確になっていない。今回の分析はアンケートをどのように生かしていくかという視点でまず集約しようということで行った。この後は、施策調査専門委員会にフィードバックするのか、県民会議の方で議論してもらうのかである。そのことを共通認識として持たないといけない。